

## 工夫して取り組んだこと

### 感染症対策全般

- ・学校の休みが多く、また行事なども中止されることが多く、子どもたちが心から笑い、楽しむことが少なくなっているため、通常の学習に加えお菓子作りなどを行った。しかし、そうした活動は密になりやすいため、子どもの間でフィジカル・ディスタンスをとれる会場をお借りした。そして、検温、手洗い、手指消毒を徹底し、マスクをつけて行き、終了後も手洗い、手指消毒を行った。
- ・コロナウイルス感染拡大防止のため、定員24名を2回に分け、16時と17時の各回12名ずつ、密にならないように、席に間隔を空け、換気、そして調理台や座席の消毒も徹底した。
- ・参加者に電話番号と氏名を記入してもらい、コロナウイルスへの感染があった場合、迅速に連絡できるよう工夫した。

### マスク・消毒・換気など

- ・エプロンや三角巾、マスクを着用
- ・手洗いと消毒を徹底
- ・ボランティア、来場者の体調確認と消毒、マスク着用の徹底
- ・トイレの清掃と消毒を行う。
- ・来場時名簿に氏名を記載、施設の掃除と消毒を行う。
- ・常時窓を開放し、換気
- ・アクリル板の設置

### 食材・献立・調理など

- ・体調不良、怪我をしている場合には調理に携わらない。
- ・調理時には材料を良く洗い、十分に加熱する。
- ・アレルギー物質を使用しない。
- ・アレルギー物質を使用する場合には予め表記
- ・材料の仕入れ先、賞味期限の確認
- ・食材を適正温度で保管・生食材と加熱済み食材は専用の調理器具を使用する。
- ・基本的に加熱したものは時間を置かずに提供する。
- ・地域の人々に事前にお米や食材提供をお願いしていたことから、使い切れないうちのお米や野菜が届けられた。

### 密 集

- ・会食の人数制限、ソーシャルディスタンスの確保
- ・予約制にし、密を防いだ。
- ・完全予約制で、前もって連絡先を確認することで、受付で密になることを防ぐことが出来た。

- ・コロナ感染対策のため、地域交流サロンの参加者と時間をずらして開催した。

## フードパントリー

- ・市営施設を会場として使用しており、この緊急事態宣言下で飲食禁止の対象となったため、食事が提供できなくなった。そのため、フードバンクの支援を受けて、通常の募集で申し込まれた家族に対して、非常食、カップ麺、スパゲッティの具材や冷凍食材等にレシピを添えて無償配布した。翌月も食事提供はできなかったため、フードバンクの方と相談しながら、子どもたちが喜びそうな食品も加えて、非常食、カップ麺、飲料水等を配布した。
- ・子ども向けのお菓子を配布した。

## オンライン

- ・リアルとオンラインの融合を目指し、町の飲食店活性化や市の「子育て環境日本一」も叶えられるように、飲食店にお弁当を作ってもらい、参加者が実際に地域の人と繋がりを持つことや、密になって集まらないママたちに、少しでも地域のママ同士がつながる体感をしてもらうために、地域の講師を招いてオンラインイベントを行ったり、お互いが少しでも知り合えるきっかけづくり、そして親子の楽しみの場所づくりを目指して取り組んだ。

## レクリエーション

- ・子どもたちへ配布する品物に絵本を加えて、自宅で楽しい時間をもってもらうように工夫した。
- ・子どもたちが喜んでくれるように、お弁当と一緒に塗り絵やなぞなぞ、脳トレなどや、かわいいのしをつけたり、クリスマスには毛糸のリースをプレゼントした。
- ・コロナ感染予防対策のため、45名定員の部屋に20名限定で、手指消毒、体温測定を徹底して行いました。間隔をあけたテーブルに親子ごとに座り、会話を控えるよう協力していただき、“静かな”食堂となった。ただ食べるだけでは楽しみもなく、使用している食材当クイズなども入れながら、楽しい雰囲気を出すよう工夫した。

## 活動するにあたり苦勞したこと

### 運 営

- ・来場している人数分より多く食事を支給して欲しいと要求された際に、対応しなかったところ、勝手に持っていかうとする人がいて苦勞した。
- ・来場者の人数制限をすると外で待ってもらふことになり、天候の悪い日にはご迷惑をおかけした。時間を事前に連絡を貰うようにして調整した。

### 会場・担い手の確保

- ・食材の確保や当日の受け渡し時間、場所などの確保は色んなところに掛け合つて何とか確保できた。
- ・フィジカル・ディスタンスのとれる広い会場の確保が大変だった。たまたま、近隣の社会福祉法人や企業のご厚意で会場を貸していただくことができた。
- ・当日のボランティアの確保が難しかった。

### 注意喚起

- ・氏名・連絡先等を記帳する際、3密になりやすいので声掛けをしたが、大声を出さなくてはいけないため苦勞した。
- ・子どもたちはお互いに距離を置くことが難しく、何度も注意する必要があった。

### 食事・食材の提供

- ・カレーを提供する際、アレルギーのあるお子さんへの対応や辛さの設定など大変苦勞したが、喜んで食べていただいたことが本当に嬉しかった。
- ・緊急事態宣言が発出されたことで休止を当初考えていた。しかしスタッフと話し合い「お持ち帰り」の案がでたため保健福祉事務所に問い合わせたところ、“給食”での許可であり、「お持ち帰り」は不可とのことであったため、再度スタッフと話し合い、食品配布を試みようという結論に至った。幸い、フードバンクでの支援を受け、配布してみたところ大いに喜んでいただけことは嬉しかった。

### 参加者の確保

- ・今は密になれないということで、公民館も閉鎖している関係で情報を届けることが難しかった。そのため、市の協力でひとり親家庭にチラシを渡していただいたり、学童を紹介していただき、チラシを配らせていただいた。また、色々な行政の窓口に置かせていただいた。
- ・新型コロナウイルスの流行でしばらくお休みしていたので、参加者がなかなか集まらなかった。

## 今後の課題

### 居場所としての子ども食堂

- ・食品配布に関しては、緊急処置的な対応として行っているが、本来の食堂の役割とはどうかと疑問は残る。しかし、地域の“食”に関わる活動として活かして行く。
- ・食事前の17時から集まれる態勢を整える。子どもたちが集まり楽しめる“居場所”が設置できるよう準備を進めている。
- ・子どもたちは会食を楽しみにしているが、人数制限をするとゆっくりと過ごすことができない。安心して過ごせる居場所としての機能が低下している。

### 地域や各種団体とのつながり

- ・現在は子どもがメインですが、ひとり親家庭への支援、そしてひとり暮らしの高齢者への支援(食堂・食品配布)等も今後整えながら、“住みやすい地域”を目指して展開する。
- ・公の関係機関(管轄部署・学校・包括センター等)や地域(地区社協や街づくり協議会)とも連携し、展開しやすい環境作りを進める。

### 感染対策

- ・氏名・連絡先等の記帳の際、3密にならない方法を工夫したい。

### 担い手の確保

- ・子どもたちに対応するスタッフ募集が必要

### デジタル

- ・新しいイベントの周知に告知サイトを使ったが、機能を十分に使いきれなかった。また、オンラインイベントにログインできない人が何人かいたようなので、そういったデジタル面をフォローする要員を必要とする。

### 活動の周知

- ・参加者を増やすことが課題のため、ママ友への呼びかけ、チラシ配布、SNSの活用をして活動の周知を行う。

### 活動の継続・再開

- ・まず、資金集めを安定的に行えるようマルシェ(野菜販売)を継続すること。また、学習支援を宣伝し、地域に根付いた活動を目指すことによって食事の食数も増加することを目指している。

## 備 品

- ・冷蔵庫や冷凍庫が、企業からの応援をいただくにあたって必要だと考えているため、リサイクルショップ等で探している。

## 運営全体

- ・初回開催のためオペレーションや、準備、そして案内方法も手探りでありバタバタしてしまった部分もあった。今後も安定して毎月開催していくために、予約方法の見直しや、お手伝い人数の増加など運営改善が必要不可欠だと思った。
- ・誰でもいいのではなく本当に困っている人に活用してもらいたいと考えているので、それはこれからの課題
- ・今後 SOS カードなどを作ってみようと考えて準備している。